**第6回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成27年3月2日（月）10:00～12:00

場所：大阪府庁新館別館北館1階　会議室兼防災活動スペース3

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

泉佐野市都市整備部　部長　近藤幸信

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

◆欠席

大輪会　中村学

◆傍聴者

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　1名

◆概要

1. 開会　　　　 　　 10:00～

2. 出席者紹介

3．報告案件　2件　 10:05〜

　　①工事の進捗状況について（トイレ建築工事）

　　②プログラム活動報告（2月）について

4. 協議案件　3件　　 10:30〜11:45

①平成27年度　大阪府・パーククラブ活動計画（案）について

　　②平成27年度　運営審議会開催計画（案）について

　　③向井池周辺整備計画（案）について

5. 閉会 12:00

**＜報告案件1：工事の進捗状況について（トイレ建築工事）＞**

公園の中央口のトイレ建設について、事務局より報告。

**増田会長**

・トイレの前に植える添え木の種類は何か。

**事務局**

・ナツツバキを植える予定である。

**増田会長**

・来園者が入口正面から入るとすぐにトイレが目に入るため、トイレを覆うように添え木を植えるとよい。

**＜報告案件2：プログラム活動報告（2月）＞**

パーククラブのプログラムについては山本委員より報告、大阪府のプログラムについては事務局より報告。

**増田会長**

・ホダ木はどのようにして調達しているのか。園内にあるものだけで足りているのか。

**松井委員**

・クヌギやコナラなどを伐採して使用しており、園内にあるものだけで足りている。

**増田会長**

・インタープリター講習は有益である。来園者に公園の魅力をうまく伝えて知っていただくということは、公園の運営において今後さらに重視されることである。今後も精力的に取り組んでいただきたい。

＜**協議案件1：平成27年度　大阪府・パーククラブ活動計画（案）について＞**

平成27年度の大阪府とパーククラブの活動計画（案）について事務局と松井PC代表より説明。

**前中委員**

・ホタルの観察場を整備する際は、周辺環境をしっかり調査した上で整備に着手したほうがよい。

**松井委員**

・天神川流域は大阪府以外の管理地となっており整備することができないため、川へ近づくための道を整備する予定である。

**前中委員**

・ホタルは取り扱いが難しく、水際の整備は慎重に行うべきである。

**松井委員**

・かつては、天神川流域へ近づくための道が存在していた。現在は竹が生い茂っており通ることができないため、まずは竹を伐採する予定である。

**前中委員**

・その道を整備する際は、運営審議会でも議論しながら進めたほうがよい。

**増田会長**

・実際にホタルは飛んでいるのか。

**山本委員**

・天神川上流のダムまで、ヒメホタルが飛んでいる。

**前中委員**

・環境が変わったためにホタルがいなくなったということが、他の地域で起きている。慎重に進めていただきたい。

**増田会長**

・砂防ダムの堆砂敷でホタルの保存活動をされているところがある。管理者としては堆積土砂を取り除きたいところだが、この川の堆積土砂をすべて取り除いてしまうとカワニナが生息できなくなる。

**松井委員**

・パーククラブの中にホタルの保護に取り組むNPOに所属しているメンバーがおり、パーククラブの活動にもホタルの観察を取り入れたいという意見があった。そのため、今回のような活動が提案されている。

**弘本委員**

・来年度の活動骨子にあるＰＲの充実について。お客さんに公園へ繰り返して来ていただくためには、動植物や自然の特徴、整備の経緯に関する知識など、魅力を高めていける情報が山ほどある。どのような形が伝わりやすいかを検討する必要がある。例えば、冊子やスタンプラリー、クイズラリーなど、様々な方法が考えられる。

**増田会長**

・アーカイブの作り方が重要である。プログラムで使用した機材やテキストなどの情報を蓄積しておけば、誰でも同じプログラムを再現することができる。大和川で水辺の学校というプログラムを実施した時に、アーカイブが役に立った。

**下村委員**

・特にリーディング区域における維持管理について。大阪府営公園の中では唯一の直営管理であるため、管理基準を明確にし、基準に則った管理を行っていただきたい。ごみや雑草などの処理、来園者の安全管理などに関する基準を明確にしておく必要がある。

**前中委員**

・来園者がパーククラブの活動を目にした時、その場で参加しても問題のない活動と、参加しないほうがよい活動があるはずである。参加できる活動とそうでない活動を判断する基準を明確にしておくとよい。またいずれの場合も、活動場所周辺の安全確保に努めなければならない。

**松井委員**

・現在はパーククラブが活動している場所にコーンを立てることで、明確にしている。

**前中委員**

・あまり仰々しく明示する必要はないが、基準は作っておくべきである。

**増田会長**

・パークセンターロビーにある大盤のコトまっぷにパーククラブが活動している場所を明記すれば、来園者がパーククラブの活動場所を簡単に知ることができる。

**西台委員**

・パーククラブが結成5周年を迎えるということだが、負担は大きくなっていないか。

**松井委員**

・負担は特に感じていないが、もっと多くの方に活動へ参加していただきたいと思っている。

**大家委員**

・イベント時の備品と食材の調達が大変であるが、その負担が一部のメンバーにのみ偏りつつある。彼らにとっては負担かもしれないので、工夫していきたい。

**増田会長**

・1度でも活動に参加した人を大切にするべきである。久しぶりに参加してくれたメンバーに｢よく参加してくれました賞｣を与えるなど、参加する敷居が低くなるよう工夫するとよい。

**大家委員**

・パーククラブ5周年記念として、5年史の発行を計画している。写真を中心とした簡単な冊子を予定しており、パーククラブ、大阪府立大学、大阪府、studio-Lで協力して作成する予定である。予算は、今年度に2万円、来年度に3万円を積み立て、合計5万円となる。

**増田会長**

・5年史の目次構成案を運営審議会に提案していただき、協議するとよい。各委員より寄稿する枠を設ける、なども可能である。

**嘉名委員**

・公園の愛称・ロゴ募集について。一般公募になると思うが、それで良いデザインが集まるとは限らない。デザイナーなど、専門性をもつ層から応募が集まるよう工夫する必要がある。

**増田会長**

・芸術系の専門学校や、大学への広報も検討していただきたい。公募はいつ開始されるのか。

**事務局**

・公募は5月に開始する予定である。

**増田会長**

・公園の開園1周年に間に合わせるのであれば、急がなければならない。デザイン協会などに広報を依頼するのも有効である。

・公園の活用について。この公園は府営公園唯一の直営公園であることから、大阪府職員研修の場として1年に1度ほど使うことを検討していただきたい。去年は30名ほどで実施されたはずである。

**事務局**

・大阪府では指定管理者制度を導入していることもあり、若手職員が公園運営を学ぶ場が少なくなっている。積極的に活用していきたいと考えている。

**増田会長**

・企業の森への参加方法も検討する必要がある。来年度中に動けるよう準備していただきたい。社員のご家族も含めて、参加者の幅が広がるとよい。

・パーククラブが実施しているキノコ栽培のプログラムには、子供の参加数が増えるとよい。

**松井委員**

・キノコ栽培のプログラムでホダ木を作った親子が、後日に様子を見に来たことがあった。より多くの方々に興味を持っていただきたいと思っている。

**増田会長**

・花苗ヤードが使えるようになることから、パーククラブの女性メンバーを中心に花を育てるチームを立ち上げることも検討していただきたい。

**松井委員**

・メンバーから過去に、ハーブをしたいという申し出があった。その時は外来種を扱うことが難しいと考え、花苗ヤードが出来た後でなければ難しいと断っていた。

**前中委員**

・植える場所を決めておけば、外来種でも育てることができる。逆に、外来種ではなくても持ち込んではいけない種もある。まずは植える場所を決めるとよい。

**松井委員**

・樹木チームが、植樹を予定しているエリアの竹を全伐した後、ドングリを植えたいという提案が挙がっている。種類はマテバシイや、シリブカガシである。

**大家委員**

・現在対象としているエリアには、主にクヌギやコナラが生えている。樹木チームはこれらに加えて、いろいろなドングリのなる樹木の種類を学んで欲しいとの思いから、この公園では現在確認出来ていないマテバシイやシリブカガシを植樹したいと考えている。

**前中委員**

・ドングリの植樹には、広い場所が必要になる。樹間は10mほど必要である。

**松井委員**

・1度現場を見ていただきながら、助言をいただきたい。

**増田会長**

・堺市の公園から他の公園へシリブカガシを里親として出した経験がある。1度現場で検討したい。

**嘉名委員**

・資料整理の仕方について。パーククラブの活動報告に一般参加者数の記載がある。それに加えて、年間でコトがいくつ起きて、それらに対する参加者数の推移も整理しておくとよい。

**増田会長**

・来園者数、園内ガイドへの参加者数、イベント参加者数、団体受け入れ数の順で、4つのデータを月ごとに一覧で確認できるようにしておくとよい。

＜**協議案件2：平成27年度　運営審議会開催計画（案）について＞**

平成27年度の運営審議会の開催計画（案）について事務局より説明。

**増田会長**

・5月と9月に天神川流域、向井池周辺、東地区などの現地確認が重なっているが、時間がかかると思われるため、方法は工夫していただきたい。現地調査は、都合のつく委員のみで別途実施してもよい。

**下村委員**

・検証、評価について。この公園は、他18ヶ所の府営公園と同じ評価項目ではなく、つくり続ける公園として別の評価項目を検討する必要がある。

**近藤委員**

・中地区へのアクセス検証について。泉佐野市のコミュニティバスが、土曜日に4便が運行可能となる予定である。予算の承認や国土交通省の許可などの関係から、平成27年秋頃の開始を予定している。

**増田会長**

・アクセスの利便性が向上するのであれば、関西国際空港や泉州地域全体への広報にもさらに力を入れたほうがよい。

・公園案内に関して。パークセンターにタブレットの導入を検討するよい。園内散策や花の記録と紹介において有用であるし、広報媒体としても役に立つ。

＜**協議案件3：向井池周辺整備計画（案）について＞**

向井池周辺整備計画（案）について事務局より説明。

**弘本委員**

・前回の運営審議会において、水辺のデッキの手すりはアルミと木を組み合わせて作るという方針で合意したと認識しているが、方針に変更はないか。

**事務局**

・変更はない。手すりの部分は木製で、支柱部分をアルミ製にする。

**増田会長**

・デッキの先端の踊り場には落下防止柵が付いているはずであるが、ボート用の開閉扉も設置される計画となっているか。

**事務局**

・ボート用の開閉扉も設置される計画である。

**増田会長**

・資料「協議3」で使用されている「農閑期の水位」という言葉は適切ではない。「灌漑期の水位」と言い直した方がよい。

**嘉名委員**

・拠点施設付近にも手すりは設置されるのか。

**事務局**

・デッキから拠点施設の張出し部分まではデッキと同じアルミ製の手すりを設置予定。張り出し部分から北側の未開設区域部分についてはロープ柵を設置予定。

**増田会長**

・拠点施設内に収納スペースは設置されるのか。

**事務局**

・トイレに倉庫を設置する予定である。

**増田会長**

・拠点施設内に椅子は設置されないのか。

**事務局**

・片付けを容易にするために、椅子ではなく簡単な長ベンチを設置する予定である。

**下村委員**

・開放時間帯はどのように設定する予定なのか。

**事務局**

・夜間も開放したままにする予定である。冬期の寒さが厳しい時期は閉めるが、夏場は常に開放する。

**前中委員**

・前回の運営審議会では、施設に木がかかってしまうという課題が挙がっていた。どのような結論になったのか。

**事務局**

・建築物の規模を縮小し位置の見直しを行ったため、かかってしまう樹木1本のみを伐採し、ご指摘の樹木は伐採を行わずに済む予定。

**増田会長**

・工事の開始時期や利用開始時期は決定しているのか。

**事務局**

・施工開始時期は平成27年の秋頃を予定しており、利用開始時期は平成28年の春頃を予定している。

**嘉名委員**

・内部の展開図はいつ頃作成されるのか。

**事務局**

・実施設計の際に作成予定である。

**嘉名委員**

・扉の多い施設なので、内部から見た時の戸の閉まり方を工夫する必要がある。

以上